

として長期に利用する研究目標及び研究計画は、NeXT計画との関連も明確で、問題がないものと判断できる。

実験ステーション設備の観点からは、(1)装置の扱いの習熟度に関しては長期課題の経験があるので、十分な習熟度があるものと思われる。(2)装置開発の協力に関しても、長期課題の経験から判断して、問題がないものと思われる。

利用研究の拡大・推進の観点からは、(1)利用研究の推進・拡大に関しては、X線天文学という一分野での基幹技術であるので、科学者の数と言うような量的な部分で判断すれば、限定的なものがあるかもしれないが、その分野の研究者がほとんど全て利用するかどうかと言う質的な見方をすれば、可能性は非常に大きいものと判断できる。技術の基盤化と拠点形成という言葉にそれが表れている。現在、マックス・プランク研究所のPANTERが、

いわば「硬X線較正標準施設」となっているようであるが、光源の性質としては、SPring-8の方が優れていることは、純粋科学的に判断して間違いないので、是非、世界標準になるように努力して欲しい。(2)ユーザー支援に関しては、技術的側面からは問題がないものと思われる。

その他、(1)平和利用、技術的实施可能性、安全性に関しては、全く問題がないものと判断できる。

専用施設の新規設置について

登録施設利用促進機関
財団法人高輝度光科学研究センター

平成19年3月に専用施設設置計画の趣意が認められた提案のうち、下記の設置実行計画が提出され、審査を行った結果、平成19年11月5日に以下のビームラインの設置が認められました。

東京大学物質科学アウトステーションビームライン
提案者：国立大学法人東京大学 小宮山宏

豊田ビームライン
提案者：株式会社豊田中央研究所 石川宣勝